

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
 ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分が「考える、選ぶ、決める」ことを大切にしている生徒が多く、効果があらわれている。</li> <li>新校舎、図書館の環境整備など、学ぶ環境が整えられている。学校見学をしたときにロッカーや靴箱の整頓ができていて意識されている。</li> <li>30分福で地域貢献・地域ボランティアができていくなかで今後地域を巻き込んで活動してほしい。</li> </ul>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自ら「考え選び決める」ことを大切にしている児童生徒が増えてきた。</li> <li>学校や地域における現在の課題を踏まえて、何が必要なか考えたり、実際に解決したりするためにどうするのか考え動く児童生徒が増えた。</li> <li>児童生徒数に対して、長期欠席者の数が多い。</li> </ul>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>コミュニケーション 人としての思いやり 課題を発見し解決できる</p> <p>共に学び、共に支えながら未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。</li> <li>児童生徒が、自己肯定感・自己有用感を高まるよう支援する。</li> <li>校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。</li> </ul>
--	---	--	--

III 自校

ミッション  
 社会の中で活躍でき、貢献できる社会人となるための基礎力の育成

学校教育目標  
 よりよく生きる力の育成  
 ～主体・自律・奉仕～

現状

<生徒>

○自分の興味や関心のあることについて、追究したりチャレンジしたりできる生徒が増えた。

○校内にあるばら園の清掃活動など積極的に奉仕活動を行う生徒が多い。

- 運動やスポーツをすることが好き。(88.1%)
- 読書が好き。(63.1%)
- 不登校・長欠生徒の割合が高い。(出現率 5.1%)

<授業>

○学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立っている。(91.9%)

- 授業で新しいことを知ったり、問題を考えたりすることが多い。(82.7%)
- 授業は自分に合った教え方、教材、学習時間などになっている。(77.3%)

育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	自他の良さを認め合いながら、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒			
	学びに向かう力	コミュニケーション力	課題設定・解決力	
めざす子ども像	Lv1	生徒同士の対話、教員との対話を通じて、自己の考えを広げ、やりたいことを見つけることができる。	他者の意見を聴き、自分の考えを伝えることができる。他者の意見を受け止め尊重することができる。	多様な情報から必要な情報を選び、自分の体験や経験と結びつけて、課題を設定することができる。
	Lv2	選択した情報を基に、自分の考えを形成したり、伝えたりすることで、問題を見出して解決に向かうことができている。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。	多様な情報を検証・分析し、時間・場所等を踏まえて相手意識をもって課題設定し、解決に向かうことができる。
	Lv3	これまで学んだことを生かして、よりよく生きるために研究することや、よりよい社会づくりに貢献するために学び続けることができる。	自己の対人関係や社会(集団)とのかかわりに対する振り返りができ、適切にありあいを付けることができる。	多様な情報を検証・分析し、目的、対象、方法を明確にして実社会・実生活に生かせるような課題設定し、解決することができる。
研究	テーマ 内容等	<p>学びをマネジメントし、主体的に学ぶ生徒の育成          ～ICTの効果的な活用を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●教職員全員が参画できるよう、授業を計画・実施・参観・交流する。その中で協議を行い、授業改善をはかる。</li> <li>●神辺中学校区・市内グループ別研修による計画にそって行う。</li> </ul>		
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学習者主体の学びをマネジメントし、学力の定着をはかることができる。</li> <li>●ICT 機器の有効活用ができているかどうかを教員がチェックできる。</li> <li>●学びの中に課題発見と解決までのプロセスがある。</li> </ul>			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 神辺中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
2	1 学習者主体の 学びを実現す る。	★	見 直 し	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒も教職員も主体的な学びにつながる授業改善を行う。</li> <li>共に学び, 共に支え, 基礎学力の定着を図る。</li> <li>多様な学習方法を充実させ, 学びに向かう意欲を高め, 長期欠席者を減少させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習場面で生徒が課題を発見し, 解決ができるまでの授業(学び)をデザインする。</li> <li>学習場面等で繰り返し学習できる場面を設定する。</li> <li>教室と自宅やほっとルームをオンラインでつなぎ, 学習支援をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のなかで「何でだろう?」「どうやったらできる?」と思っている生徒の割合を昨年度以上。(昨年度 79%)</li> <li>繰り返し学習したことで「できるようになった」生徒の割合を90%以上。</li> </ul>								
2	2 生徒が安心して通うことのできる学校づくりを実現する。		継 続	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教室で「安心安全の場」をつくり長期欠席生徒数を減少させる。</li> <li>生徒の自己指導能力を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長期欠席者ゼロ実現委員会が中心となって個別対応チームを編成し, ほっとルームを中心に学習支援や心のサポートを行う。</li> <li>生徒の主体的な活動をあらゆる場面で設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新規長期欠席者の出現率を減らす。(現状 1.7%)</li> <li>「学校で安心して生活できている」の回答割合を90%以上。</li> <li>「時間を守るだけではなく, どのような時なのか考えて行動している。」「環境整備だけではなく, どのような場なのか考えて行動している。」「自ら挨拶している。」「相手意識をもった行動をしている。」割合を80%以上。</li> </ul>								

6	3 地域貢献がしたいと思う生徒を育成する。	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域について知り、地域を大切に思う生徒を育成する。</li> <li>・他者のために動いたり、役立ちたいと思ったりする生徒を育成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方と対話する機会を設けて、課題や改善点を見つけられるような学びをつくる。</li> <li>・学級や部活動、地域の活動などで生徒が貢献できるような場を設定する。</li> <li>・ボランティア活動の設定と周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「地域について知り、地域を大切に思っている」生徒の割合を90%以上。</li> <li>・「人の役に立っている」と回答する生徒の割合を昨年度以上。(昨年度69%)</li> <li>・ボランティア活動へ主体的に参加できた生徒の割合を80%以上とする。</li> </ul>						
6	4 信頼される学校を目指す。	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた学校を目指し、確かな情報を公開できるよう取り組む。</li> <li>・不祥事を起こさないよう取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページを更新したり、学年学級通信等で情報を公開したりする。</li> <li>・不祥事防止委員会を活用して、内容について職員へ周知を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者アンケートから、「学校の様子がよくわかる」と回答する保護者の割合を昨年度以上。(昨年度73%)</li> </ul>						
2	5 時間外勤務について意識し、やりがいを高め、時間外勤務を減らす教員を育成する。	継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の病休者を0にする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程の見直しや自分の仕事の優先順位を考え、時間外勤務を減らす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外勤務で月45時間未満をめざす。昨年度と比較して時間数を減少する。</li> <li>・仕事にやりがいを感している教員が90%以上。</li> <li>・「忙しいと感じていて、新しいことに取り組む余裕がない」教職員を50%以下とする。(100NENアンケート現状80%)</li> </ul>						

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。